

最近，思うこと

先日、千葉県立船橋高等技術専門学校の上山君から電話をもらい、いやー久しぶりと昔話に花を咲かせて、なんと最後になって、原稿を！と。絶句。何でもいからと引き受けました溝です。ずいぶん年月も経ち、おもしろい話の種もなくなりましたが、何とか絞り出して書いてみたいと思います。上山君とは4年間、訓大時代に同期で、寮で酒を酌み交わした仲です。よろしくお願ひします。

私は普通課程の2年訓練を担当しておりますが、就職前線も厳しさを増し、訓練生の就職先に頭の痛い日々が続いております。つくづく、今の状況からしますと、私が訓大を出て民間に就職をしたときは幸せだったと思います。

さて、民間からこの訓練業界に入って、最初は最先端の技術の習得を目指して頑張っておりましたが、ふと、熟年の先生方の指導を見ておられますと、最先端ではないがこれが職業に必要な基礎的な技能とよばれるもので、技術専門学校にはこちらの方も大切ではないかと思うようになりました。最先端はなんと言っても企業が進んでいるわけですから、背伸びをして最先端ばかりやるよりも、将来その上にどんどん技術、技能が積み重なるような基礎訓練が大切ではないかと改めて思うようになりました。具体的には、NC工作機より汎用工作機の訓練に重点を移したり、測定器でも、基本的な測定器を組み合わせて、より正確に測る訓練に力を入れるのもよいのではないかと



本館

と思います。企業に入ったときの基本である、同じ結果を出すのにいかに安くあげるかということにつながるのではないかと思います。

また現代は環境が整いすぎて、幼児時代からやろうと思えばほとんど何でも習えるのが現実ではないでしょうか。その結果、整った環境で実力が発揮できる人はたくさんいるが、自分から環境を変えてまでやろうとする人は少ないのではないかと思います。すなわち、やる気が本当にある人は少ないのではないかと思います。

これは、情報量が多すぎて昔のように単純に人生が過ごせなくなったのも一つの要因だと思いますが、特に技術専門学校に来てやる気の感じられない方は、学びたいことと就職した後の自分像が結びつかない人が多いのではないかと思います。例えば、車は好きだが手を汚して整備をしたくない人がいるとすると、こういう人には車の基礎知識を得た後、企業委託でカー用品販売の仕事をやりながら、そこに就職してもらおうとか、今は入校試験が異なり、形態の違う訓練も互いに融合し合いながら、その人のニーズに合わせていく訓練が、少子化に向け、これからはもっと必要ではないかと思います。将来的には、科は関係なく、技術専門学校全体の入校試験を行い、1月ぐらいかけて体験学習、科ごとの将来なり得る自分像等を認識させて、その後（委託訓練等も含めて）振り分け、訓練を実施していく。これにより、より多くの方が、はっきりした目的意識を持って、自分に合った職業に向け訓練を受けることができると思います。さらに生きた訓練ニーズが吸収でき、将来の科の編成にも役に立つのではないかと思います。“技術専門学校に行けば、必ず自分に適した就職をするための訓練を受けることができる”と言われるまで、将来にわたり日々努力していきたいと思ひます。

さて次のリレートークは、訓大時代、自転車のロードレーサーで鳴らした我孫子高等技術専門学校の園田君にお願ひします。